

「わが盲想」著者・アブディンさんが語る祖国スーダン



古くから地中海世界とアフリカ・中東世界とアフリカの結節点としての役割を担ってきたスーダンは、歴史的にも他民族の侵入や王朝の興亡、キリスト教やイスラム教の伝播など、幾多の変遷を重ねてきました。

そこに暮らす人々も実に多様で、肥よくなイル川沿いは農耕民、草原が広がる中西部は遊牧民、アラビア半島に近い北部はアラブ系（イスラム教徒）、サブサハラ・アフリカにより近い南部はアフリカ系（キリスト教、土着信仰など）など、いろいろな表情を持ち合わせています。2008年時点の人口は3,915万人ですが、その中には数百もの異なる民族が共存しています。

（外務省HPより）

これまでに26回続いた大人気講座「市民の眼からみた海外の国ぐに」最終回は、つくば市在住のスーダン人で、国際政治学者であり、抱腹絶倒のエッセイ「わが盲想」の著者でもあるモハメド・オマル・アブディンさんと、日本国際ボランティアセンター（JVC）でスーダンへの人道支援活動を続けている小林麗子さんをお招きし、スーダンという国、そこに住む人々、そしてスーダンがおかれている現状について語っていただきます。

話題提供

モハメド・オマル・アブディン さん

1978年、スーダンの首都ハルツームに生まれる。

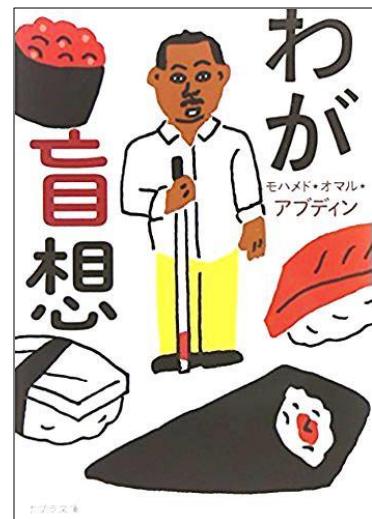
生まれたときから弱視で、12歳のときに視力を失う。19歳のとき来日、福井県立盲学校で点字や鍼灸を学ぶ。その後、母国スーダンの紛争問題と平和について学びたいという思いから、東京外国语大学に入学。同大学の特任助教を経て、現在は学習院大学法学部政治学科特別客員教授。熱烈な広島カープファン。著書に自らの半生と、見たことのない日本をどのように感じてきたかを描いた『わが盲想』（ポプラ社）がある。2007年にスーダン障害者教育支援の会を設立し、母国の障害者教育環境改善に取り組み、現在代表理事を務める。

小林 麗子 さん（日本国際ボランティアセンター スーダン事業担当）

埼玉県出身。大学卒業後、科学機器メーカーの輸出課に勤務。人種・民族問題への関心から、退職し社会学修士課程へ進学する。2005年よりNGOに職を得て、念願の国際協力に携わるようになる。2015年7月から現職。

小林さんからのメッセージ

JVCは南北スーダン国境に近い南コルドファン州カドグリ郡にて、2011年6月に勃発した紛争の避難民を支援し、現地の人々の自主性や対話を重視して活動しています。活動紹介を通して、紛争の影響を受けながらも逞しく生きる人々を身近に感じていただけたら嬉しいです。



「わが盲想」（ポプラ社）
モハメド・オマル・アブディン著

紛争が続く祖国スーダンを飛び出し、盲目の青年・アブディンがめざしたのは、未知の国ニッポン。言葉も文化もわからない、しかも見えない世界で、幾多のピンチや珍事に見舞われながらも、ユーモアいっぱいに切り抜けていく様を、音声読み上げソフトで自ら綴った異色の青春記。

■日 時 11月12日(日) 14:00～16:30
 ■場 所 つくば市民大学 (つくば市東新井 15-2 ろうきんビル 5階)
 ■参加費 無 料

※受講にはつくば市民大学の学生証が必要です。当日発行いたします。個人 500円・団体 1,000円